2013 年頭のご挨拶

謹賀新年

陰陽を越えた地平へ

常務取締役　編集長　島田　浩

新年明けましておめでとうございます。旧年中も皆様には多大なるお力添えとご愛顧を頂きました事、心より御礼申し上げます。また、チャリティーに際しましては多くの方々に御協賛いただき、あらためまして感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

昨年末の総選挙が終わり、平静を取り戻しているかのように見える世の中。原発再開とTPP参加、国防軍の創設を前提にした政権下で、マスコミでは経済成長路線を喜ぶ財界人の声が大きく取り上げられています。世の中が発展するのは良いことですが、もろ手を挙げて喜ぶ気持ちにはなれません。

いまだ収まらない福島原発や、避難されている方々の不安や苦しみは続いており、地震国日本でいつまた同じ災禍が起こるとも限りません。競争原理を是とし、経済の活性化ばかりに目が向いたTPPへの参加により、日本農業は崩壊し、食糧自給の出来ない国になってしまうかもしれません。また、いくら軍備を増強し守りを固めても、一発の核爆弾投下ですべては終わってしまうのです。

誰もが本当は平和な暮らしを望んでいるはずなのに、国益や企業・個人の利益という壁の前で立ち止まってしまいます。私たちは、いったいどうすれば良いのでしょうか?

敵や味方、勝者と敗者、自然と開発、昼夜、寒暖、男と女…。この世界に厳然としてある二律背反した陰陽の姿。もしかしたら、私たちはその陰陽相克を超える立ち位置を見つける必要があるのかもしれません。

「まほろば」では店舗移転に伴う設計の際、右回りと左回りの黄金比で描かれたふたつの螺旋の中心を合わせることで、無限に広がるハートを発見しました。相対する陰陽の中心が一つに結ばれると、ハート(愛)が生まれたのです。

宇宙空間から地上を眺めたら、陰も陽も、敵も味方もありません。最悪も最高もない。そこにあるのは淡々としたリズムを重ねながらも、刻々と変化を続ける美しい自然の営み。

何も宇宙に出なくたって、心の目を開いて幼子の様に虚心に眺めることが出来るならば、自然はいつだって私たちの目の前にその神秘の扉を開いてくれます。朝露に濡れるクモの巣の中にも、自分の何倍もの餌を軽々と運ぶアリ一匹の中にも、その力強さと生命の輝きは溢れています。すべては美しく神聖で、精妙なエネルギーに満ちていることに気づきます。どんなに劣った存在のように見えるものにさえ、また、どんな惨めな状況の中でさえ、その愛のエネルギーは私たちを包み、生かしてくれているのですね。

もしかしたら、本当の幸せや、平和というものは、そんな小さな気づきの中にあるのかもしれません。

はてしのない経済成長や物質的な豊かさの裏にある、心の豊かさ、生命とのふれあい、目に見えない大きな力で生かされていることへの感謝…。そして、すべてのものが一つながりであり、創造主の発露であることへの気づき。すべてがその一部であり、自分自身でさえあることへの理解。

敵は自分の中の恐れの反映であり、病は自らを大切にしていないことへの教えであり、環境汚染は私たちが自然から離れてしまったツケなのかもしれません。

そのように、陰陽相克の意識から一段上の地平に立ってみたならば、陰と陽はダイナミックなエネルギーの中で調和しています。敵対するものなどなく、私たちは一つの同じ"いのち"を生きています。バラバラに見えるすべて、樹木や微生物、水や空気、あらゆるものが互いに補い合って、生命として存在しているのです。

私たちに与えられた厳しい状況は、それを励みとし、自ら変わっていくことが出来るようにと、人類の成長を促す為に与えられた課題ではないでしょうか。そして、これからの世界は、政治や経済力、軍事力ではなく、私たちのひとつに繋がる意識の力で変わって行くのかもしれません。二律背反を超え、真の平和や愛と共に在る理想の社会。不可能だとあきらめることなく、意識と生き方を変える小さな歩みを始めることが必要なのだと、今、感じています。

「まほろば」とは、古人が求めた理想の故郷。

それは、あるがままのこの自然であり、この地球こそが、「まほろば」だったのかもしれません。この「まほろば」の中で皆様と共に、心も体も健やかな日々を、そして豊かな自然に囲まれた、「こころの故郷」の実現を目指してゆくことが出来ればと思います。どうぞ本年もよろしくお願い申し上げます。

本年もどうぞ宜しくお願い致します。

平成二十五年　元正